

## 第1回もんじゅ廃止措置に係る連絡協議会 議事概要

日時：平成30年2月8日(金) 17:00～17:30

場所：文部科学省 18階 研究開発局第1会議室

出席者：

佐伯 浩治	文部科学省研究開発局長
小澤 典明	経済産業省資源エネルギー庁資源エネルギー政策統括調整官
藤田 穰	福井県副知事
淵上 隆信	敦賀市長

議題：

- (1) 地元との連絡体制について
- (2) 「もんじゅ」における1次系ナトリウムの抜き取りに向けた検討状況について
- (3) 「もんじゅ」使用済燃料、ナトリウムの搬出に向けた計画策定に係る検討状況について
- (4) もんじゅの廃止措置実施体制について

参加者の主な発言：

(1次系ナトリウムの取出し作業について)

【藤田副知事】1次系ナトリウムについては、昨年、全てのナトリウムを取出しできないかのような報道もあったところ、本日は原子炉容器に残留するナトリウムの抜取方法について、海外の先行事例を踏まえながら、今後検討するとの説明だったが1次系ナトリウムについて、安全かつ確実に全量を抜き取れるのか。また評価専門家会合の委員からは、今後の技術的な検討に際し、どのような意見を求めていくのか伺う。

【淵上市長】

・1次系ナトリウムの抜き取りに関して「設計時にナトリウムの回収を想定せず」という報道があり、それに対しては文部科学省としても誤解を与える報道をしないよう抗議したと聞いているが、このような報道がなされると不安に思う市民もいるため、国としても正確な情報を発信していただきたい。

・「もんじゅ」の廃止措置にあたっては、ナトリウムの抜き取りに限らず、様々な課題があることは理解しており、それら一つ一つの課題について、専門家の検証を受けながら、安全確保を最優先に徹底的に検討し、着実に廃止措置を進めていただきますようお願いする。

【佐伯局長】

・ご指摘頂いた報道内容について、このような必ずしも正確とはいえない報道が地元の方々に様々な御心配をおかけしたことは大変遺憾であり、原子力機構及び文部科学省から当該報道機関へ抗議を行うとともに原子力機構が反論を同機構のホームページに掲載している。

・1次系ナトリウムの抜き取り作業については、様々なリスクを想定し、原子力機構において安全、着実かつ計画的に作業を進め、抜き取りを行う。

・評価専門家会合に対しては、作業において想定されるリスクとその対策の妥当性など安全

な作業の実施に向けた意見、助言を原子力機構の取組の進捗に応じて適宜求めていく。

(使用済燃料、ナトリウムの搬出計画について)

【藤田副知事】使用済燃料、ナトリウムの搬出や処理処分については、年末までに使用済燃料の再処理が可能な施設、ナトリウムの再利用や売却等の方法、安全な輸送方法などについて提示いただくことになっているが、昨年11月の「もんじゅ関連協議会」において考え方を示してから、既に3か月が経過しており、速やかに調査に取りかかり、具体的な方法を提示いただきたい。

【瀧上市長】使用済燃料及びナトリウムの搬出計画については具体的な検討が始まっていない状況かと認識しているが、本年中に技術的課題を抽出し、平成31年以降、具体的な検討、計画の策定を進めていくということであるため、あらゆる可能性を十分に検討し、できる限り早期に搬出が完了できる計画をお示しいただきたい。また、市民にも検討の進捗が分かるよう、検討状況についてもつぶさに説明をいただきたい。

【佐伯局長】使用済燃料、ナトリウムの搬出計画については、既に文部科学省と原子力機構が検討に着手しており、引き続き調査を進め、技術的に再処理が可能な施設、ナトリウムの再利用や売却等の方法、使用済燃料やナトリウムの安全な輸送方法等を本年中にはお示ししたい。

(廃止措置実施体制について)

【藤田副知事】昨年末から今年にかけて、「もんじゅ」において作業ミス等が立て続けに起こっており、国が指導・監督を強化しているにもかかわらず現場の安全意識が徹底されていないことを危惧している。現地対策チームが廃止措置計画の詳細をしっかりと把握した上で、原子力機構に対する指導を徹底していただきたい。

・廃止措置については、従来から「もんじゅ」現場の体制強化が重要と申し上げており、11月の「もんじゅ関連協議会」では、「電力・メーカーに対し、国が人材の派遣を要請する」との方針が示された。現在どのような対応をされているのか進捗状況を伺う。

・国の現地体制についても、これまでの「もんじゅ関連協議会」における説明では、廃止措置の進展に応じて強化するとしているが、どのように現地職員を増強していくかを伺う。

【瀧上市長】

・本部体制についてはこれまでも報告を受けているが、今回現場である「もんじゅ」の体制について本部の体制に対応する形で2つの部に集約し強化を図ると理解。この2つの部がセクショナリズムに陥ることなく、互いに連携・協力が図られる体制や意識づくりを強く求めたい。

・体制が機能するためには、外部からの人材と原子力機構の職員との間、そして実証本部と現場である「もんじゅ」の間でカウンターパートを明確にする等、各々の連携がしっかりと図られることが重要。本部と「もんじゅ」とが上意下達の関係になることのないよう、本部と現場とが一体となって、安全確保に取り組んでいただきたい。

・敦賀廃止措置実証本部や「もんじゅ」に電力・メーカーなどの外部人材を配置するという

ことだが、本部及び「もんじゅ」それぞれで現状どこまで進んでいるのか具体的に説明いただきたい。

・「もんじゅ」の廃止措置計画の認可申請を受け、昨年12月8日に「もんじゅ」に出向き思いも述べさせていただいたが、それ以降ヒューマンエラーが発生しており非常に遺憾。結果として事象は軽微なものであったものヒューマンエラーが重大なトラブルに繋がる可能性も十分ありえるため、防止対策を徹底しヒューマンエラーを起こす体質というのを改善していただく必要がある。文部科学省として今回のヒューマンエラーをどのように受け止めているのか、また今後ヒューマンエラー防止のために原子力機構をどのように指導していくのか伺う。

**【佐伯局長】**

・「もんじゅ」におけるヒューマンエラー発生等原子力機構の現場の安全意識が徹底されていないとのご指摘については、先般の現地対策チーム会合において「協力会社含め緊張感をもって基本動作の徹底をしっかりと行うこと。現場での実施状況を定期的又は抜き打ちで原課以外の課でもダブルチェックすることも必要である。」と原子力機構に対して指導を行ったところ。原子力機構においてヒューマンエラーに対する再発防止策が着実に実施され、原子力機構の現場の安全意識が徹底されるよう、引き続き原子力機構の取組状況について報告を受け、現地対策チームが中心となってしっかりと原子力機構を指導・監督してまいる。

・敦賀廃止措置実証本部には既に電力・メーカーからの管理職級職員を一部配置しており、引き続き10名程度の受け入れに向け対応していく。「もんじゅ」の現場の体制強化については、現在も電力・メーカー等から燃料取出しなどの業務の中核となるポジションに派遣いただいております、引き続き、原子力機構における「もんじゅ」現場の体制強化が進むよう国としてもしっかりと対応していく。

・国の現地職員の体制強化については、これまでご説明してきたとおり廃止措置の進展に応じて少なくとも10名規模に増員することとしている。これを目指し来年度政府予算案において一部の経費を取りまとめる等行っており、引き続き増員に向けて適切に対応していく。

**【小澤統括調整官】** 現地職員の体制強化については、廃止措置の進捗に応じて、文科省ともしっかりと連携しながら検討していく。

(「もんじゅ」サイトを活用した試験研究炉の整備)

**【藤田副知事】** 「もんじゅ」サイトを活用した試験研究炉の整備については今年度中間とりまとめを行い、来年度は具体的な仕様や運営主体、大学等の連携促進施策についても調査すると伺っている。調査・検討状況については適宜拠点化推進会議の場で報告するとともにスケジュール感を持って進めていただきたい。

**【佐伯局長】** 試験研究炉の整備に関する調査・検討状況は、エネルギー研究開発拠点化推進会議の場等で適宜ご説明する。

(その他)

**【藤田副知事】** 11月の「もんじゅ関連協議会」以降の約3か月の進捗状況などについて説明

をいただいた。来年度に向けて少し具体的になったものもあれば、検討の緒に就いたばかりのものもあったという認識。今後さらに検討を加速いただき、改めてこの連絡協議会や拠点化会議の場等で国の対応状況について伺いたいためよろしく願います。

**【淵上市長】**

・市民からは、「もんじゅ」はこれまでトラブルなどで工程どおりに進められなかった経緯を考えると、約5年間で原子炉からの燃料取出しができるのか、危惧している」との声も聞いている。また、運転を安全に行う主体としての資質がないとされた原子力機構が安全に廃止措置を進めることができるのかという不安を感じている市民もいるため、政府が責任をもって「もんじゅ」の廃止措置を行うのだという、力強い姿勢を今後とも示していただきたい。

・今後も、連絡協議会などを通じ適宜ご報告いただくとともに、市民に対しても廃止措置の状況について時機をとらえ丁寧に説明いただきたい。

**【佐伯局長】**本日頂いたご意見については、引き続き原子力機構とともに検討を行い、現地対策チーム会合等の場を活用し進捗に応じて地元にお示ししていく。今後も原子力機構が、「もんじゅ」の廃止措置を安全着実かつ計画的に進められるよう、政府一体となってしっかりと取り組んでいく。

以上